

会 議 録

1 会 議 名	平成 29 年度 第 1 回 太子町都市計画審議会
2 開 催 日 時	平成 29 年 12 月 19 日 (火) 午後 1 時 55 分から午後 3 時 10 分まで
3 開 催 場 所	太子町役場 行政棟 3 階ホール
4 出席者、欠席者 (敬称略)	(出席委員) 北川良弘、齊藤和夫、廣田誠、高井國昭、信田智 (代)、宇仁貫一 (代)、 近都学、芦田義則、瀧口迪範、室井美智博、吉田正之、改野隆弘 ※ (代) : 代理人が出席 (欠席委員) なし (太子町) 町長 服部千秋 経済建設部長 八幡充治 (事務局) まちづくり課 森川勝、高坂文泰、三木隆史、宗藤菜都美
5 傍聴者	なし
6 議事	議案第 1 号 太子町立地適正化計画 (案) について

<p>7 議事の内容 以下のとおり</p>	
<p>1 開会</p>	
<p>2 町長挨拶</p>	<p>(町長 挨拶)</p>
<p>3 会長挨拶</p>	<p>(高井会長 挨拶)</p>
<p>4 議事録署名委員 の指名</p>	<p>【事務局】 本日委員数 12 名のうち出席委員 12 名全員出席されていますので今回の審議会は成立しておりますことをお伝えします。</p> <p>(廣田誠委員、齊藤和夫委員に指名)</p>
<p>5 議事 議案第 1 号</p>	<p>【高井会長】 本日の案件は、太子町立地適正化計画の案について、説明を受けるというものでございます。 それでは、議案第 1 号「太子町立地適正化計画 (案)」について事務局からの説明を求めます。</p> <p>【事務局】 説明 (制度概要、太子町立地適正化計画素案、パブリックコメントの実施)</p>
<p>質疑</p>	<p>【吉田委員】 この計画策定は国の指導のようですが、国が予測した内容が太子町の場合、全く当てはまっていないと考えます。 まず、2005 年頃に太子町総合計画をお作りになられて、その時の人口予測では今年前後は 3 万 2,000 人ぐらいに減っていた。それが今は人口 3 万 4,000 人ですよ。減るとの予測でしたが、今も減ってはいない。 太子町はやり方によっては人口をもっと増やせると思うのに、何であえてこんなに人口が減るとの前提で計画を作るのかという点を非常に疑問に思います。 結局、色々と線引きをされて、市街化調整区域にされたところがほとんど発展せずに市街化のところへみんなが集中しています。現実に私の娘が網干から太子の方で建てたいと、網干駅から近いところで土地を探しても土地がない。探してあっても、調整区域ばかりです。</p>

国の指導行為によって太子町を潰すというか、発展させないようにするための策ではないかと疑いたくなります。その辺、いかがでしょうか。

太子町の発展のためには、むしろ太子町の人口はやりようによっては増えるんだ、というぐらいのことを考える必要があるのではないのでしょうか。

石海地区の人に聞いたら、調整区域にされたがために発展のしようがないということで、私のところへ、もう調整区域を何とかしてくれと審議会で言ってほしいと言ってきました。

だから太子町はやり方でもっともっと発展するのに、それを国が言ってきたから足並み揃えないとダメと言う国は、かえって太子町を全く理解していない。

【会長】

はい、ありがとうございます。

事務局、説明をお願いできますか。

【森川課長】

吉田委員がおっしゃられるように、これからの太子町の人口は一時的にはまだ増えていくと考えております。

網干駅前の区画整理事業で300人程度増えるなどの要素がありますが、社人研が想定している人口動態につきましては、やはり太子町も減るという予測です。将来人口が減ることはもう全国的なものですが、やり方によっては太子町がある程度の増となるのは分かっております。

ただ、立地適正化計画は2040年、約25年先を見据えた制度です。

一時的に太子町の人口が増えたとして、そのまま維持し続けることができるのかどうかというのは、全国予測と比して太子町だけが伸びるとは想定できないと考えております。当然、若干にしても減があると予測しないとけませんし、総合戦略での人口ビジョンにつきましても、目標値3万2,000人強と減を予測しているところです。

また、市街化区域を増やすことはなかなかできない状態ではあります。農振農用地を含む調整区域で問題が発生しているのも把握しておりますし、ご指摘のように色々とお聞きはしております。

しかし、この計画は人口減少の情勢の中、市街化区域のある程度の人口は維持していこうという方策を立地適正化計画として策定するのが目的でございます。やはり今後20年を考えると、減になるのではないかという予測であるということを御理解いただきたいと思っております。

【吉田委員】

では今後10年ぐらいまで人口が伸びていった場合はどうするんですか。

逆に、この計画で伸びないようになってしまうというようなこともあるんで

すよね。だから人口が増えるときに増やしておかないと、20年後の減がものすごく激しくなるわけでしょう。

やっぱりそこを本当に考えなきゃいけないと私は思うんです。今抑えてしまったら20年後はもっとひどくなる。だから、今のうちに増やした方がいい。いろんな人から聞いてるんですけど、病院を太子町に作りたいとか、店を出したい、でも土地がないんだ、と言われるわけですね。どこかありませんかと言われますよ。

そういう声はたくさんあるのに、全部今までの都市計画問題で押さえられてしまっているというのが現実です、ということをお願いしておきたいと思えます。

【八幡部長】

吉田委員が言われることを我々も十分理解しております。

昨日も農業委員会がございまして、農政と都市計画の相反する話も出ましたし、広域的な観点から見る太子町の位置づけというものが、先ほど事務局から説明のあったような高岡や富山などとは背景が大分違うところがございします。

ただし、やはり人口減というものはどうしても避けられない問題です。コンパクトシティという町が縮小していくような捉え方があると思うんですけど、そうではなくて、山崎亮さんが書かれている本を読むと縮充と表現され、充実させていくんだと書かれています。まさに私は縮充のまちを作ることが非常に大事じゃないかなと考えています。

例えばインフラ整備はそこそこ整っているんですけども、まだまだ手を入れられないところがある。だけど家や店を出した後に手を入れる程の財力もない。そういう意味では集約化していったって500メートル圏域を計画的に縮充していきながら、調整区域からの居住誘導であったり、定住促進であったりを各地域が持つ特性を生かしながら、調整区域は調整区域の土地利用のあり方というのが必ずあると思っています。そのバランスをとりながら、何とか町全体のまちづくりを進めたいと思えます。

線引きを見直しての市街化拡大という話もあるんですけども、それは今の人口動向を十分に見ながら慎重に考えていかざるを得ないのかなというふうには思っています。

吉田委員が言われているとおり、今こうやってぎゅっと絞めてしまうということは外から入ってくるものを全部シャットアウトして発展しようとしている、需要があるのに、みすみすその需要を断っているような状態に見えるかもわからないですけども、そこは企業誘致とか別の観点から考えていく。ただ、病院とか生活に必要な利便性が高い施設はできるだけ町の中心へ誘導していこうとすることが目的です。

居住誘導に関しては縮める要素はないので、ほとんどが今の集積している現

状と同じところに居住誘導区域があります。ですが、都市機能はもう少し集積し縮充していこうというのが我々、事務局の考えというふうに御理解いただけないでしょうか。

【吉田委員】

よくわかるんです。そこはぐっと締められたらいいと思うんですけどね。ただ居住区域はこれからの問題として、もう少し考えていってもらわないと、なかなか人口を増やしていくのが難しくなるのではないですかということをお伝えしたかったです。ありがとうございました。

【会長】

では、事務局は先程のご意見も受けとめておいてください。ほかはございませんでしょうか。

【廣田委員】

少子高齢化もあつての児童福祉センターなどの市街化区域内への集約という話なんですけども、そういうような社会状況の中で、いわゆる誘導できる開発ポテンシャルが今あるのかなとちょっと思います。

方法論として、どうやって誘導するかにあたっては届出と助成制度が仕組みになつてるようだけでも、本当にそのような開発ポテンシャルがあつて、そういう仕組みで誘導できるものなのか。届け出で誘導することによって来にくくなる。今の都市計画のままでやった方が今ある立地の選択肢が増えるというふうに思います。

どこまでできるのか、やっていくのか調整区域内の話ですけども、特別指定区域などで進めていくと。この立地適正化計画の計画論としては分かるんですが、そういうこともやるような状況にあるのかどうかというところにちょっと疑問があります。

それと、中心には斑鳩周辺や網干駅がある。そこは誘導することによって、どんな町になるのか、現状を見るとちょっとイメージできない。

網干駅を毎日利用して通勤してますけども、確かに今は何もない。区画整理をやってますけども、そういうこともやってどんな町になるのか。果たして、おっしゃるような施設をつくる余地があるのか。

【八幡部長】

最初に言われた、都市機能誘導区域外に建てたい、例えば病院であつたり、児童や高齢者の福祉センターであつたりと、そういう施設がこの赤い区域の都市機能誘導区域に建てるようわざわざここに絞ってくるのか、についてですが、都市機能誘導区域の中が区画整理などで都市機能や基盤整備がきちつとできていて、道路もあつて、いつでも建物が建てれる状態で販売できてい

るのかというところではない。

言われてるとおり、例えば何千㎡の病院をつくりたいと言っても、適地が本当にこの都市機能誘導区域の中であるのかというところは非常に我々も危惧しているところでもあります。

ただ、緑の居住誘導区域内で建てたいと言っている都市機能を有する方が一度は都市機能誘導区域でやってみることをまず試みてもらうと言いますか。そこでの可能性みたいなものを1回検討してもらった上で、できるだけ赤の都市機能誘導区域の中に、最低限でも誘導区域の近くに誘導できないかなという考えです。

例えば、この立地適正化計画がなければ、この居住誘導区域内でも市街化区域なら場所はどこでもいいよね、という話になってしまうので、確かに我々も赤の都市機能誘導区域を国との話の中でもできるだけ広げて、都市機能誘導区域を固めたいんですけども、なかなか難しい状況でありまして、今まででかなり絞り込んだものを案として設定しています。

網干駅については、アンケートを取ったりと色々な住民の方から意見を聞きながら、今現在、龍野線や網干線の道路整備を計画して事業をやっています。まずは子育て関係の施設であったり、病院であったり、高齢者向けの施設であったり、生活に必要な物販店であったり、そういったものがないと住めないと言われることが分かってきました。そしてできれば、その駅前の広域的な立地のよさを生かして、京阪神に勤められる方が網干駅周辺で子供を預けてから勤務にむかって、また帰ってきて子供を引き取ってから帰る。そこにショッピングセンターがあつて食材を買って家に帰るというふうなツーリズム的なものがないかな、というのが今の考えです。網干駅前の姫路市の区画整理と、太子町では300人ぐらいが区画整理内で住まれると予想してありますが、住宅整備とあわせて駅前の立地を生かしたまちづくりを進めようかということ計画しているところでございます。

【廣田委員】

居住誘導区域の人たちをそちらに誘導するという話ですが、今の太子町の狭い地域の中で、今の都市計画のまま、居住誘導区域と呼ばれるところに病院が立地し、来ることと何がどう違うのか。町民の利便性はほとんど変わらないのではないか。集約することでどこまで町民の利益になるのかが見えない。

網干駅のところも色々と言われましたが、確かに要望としてはそういうのがあり実現できるといいと思います。しかし、開発好適地があるのかが疑問というのが私の意見です。

【会長】

事務局は先程のご意見も受けとめておいてください。

では、ほかの委員で何かご質問等ございませんでしょうか。

【吉田委員】

40 ページの地図で、この真ん中より下の方の都市機能誘導区域ですが、もう西側の居住区域がすぐなくなるのはおかしいと思う。この周りにもう少し緑色の居住誘導区域があってもいいのではないかと思ったりします。

上の拠点はちゃんとその周りに市街化区域があって、緑の居住誘導区域もあるけども、下の都市機能誘導区域のすぐ横が居住地域でないということ自体がちょっとおかしいのではないかな、というふうに私の意見として申し上げました。

【八幡部長】

前回もこの話を違う場所でしましたが、太子町はよそからいうと市街化区域と調整区域の線が都市機能誘導区域、居住誘導区域の線とも言えます。

たまたま太子町は小さな町で、その中に市街化区域が 20%あります。その 20%の中で、さらに絞り込んだ都市機能誘導区域を定めていくこととなります。まちづくりの観点から見ると、斑鳩周辺の斑鳩の宿という宿場町があって近隣商業地域の群になった形と、東西の 179 号線と南北の龍野線に張りついた沿道型の発展系が見てとれると思います。

これは特性として、モータリゼーションで広域ネットワークができた関係で各沿道に店が多く張りついて、その奥がすべて住宅地となり、住宅地と沿道サービス等との用途地域に関しても、都市の経済に関しても格差が結構あります。それが太子町の特性的かなというふうに思っております。それをどうするかは非常に難しく、斑鳩地区と太田地区とは二極性があると考えます。

斑鳩はもともとの宿場町としての形態がまだ残っているまとまった地域、新しい太田地域ではあくまでも沿道型で発展してきた町。網干駅周辺は近隣商業地域が昔の駅前商店街が少しだけあって、それが残って周りに人が住んでるという特性があります。

龍田地域は丸々が調整区域となっていますので、そういう特性はありませんが、そういう観点からすると、廣田委員が言われたように、ラインが非常に後退するという中で再認識するのは、今のままでも結構都市機能が充実して、サービス業もあって、調整区域から車で行っても 5 分以内。歩いてこれないこともないような、自転車ですら行けない距離でもないという、近隣市町から比べると非常に利便性の高いまちであるというふうに認識しています。

その中で、先ほどから申し上げるとおり、緑の居住誘導区域にもものができるもよいですが、より一層縮充して、もう少し充実していくというような方向性を示そうというのが、この赤の都市機能誘導区域のラインでありまして、今言いました 3 つの地域性をどうやってうまく維持していこうか、というふ

うに考えて、立地適正化計画を国と折衝しているところでございます。

【近都委員】

53 ページに広域連携についての説明がありましたけれども、構成委員のところで姫路市、たつの市、福崎町が上がっています。40 ページにまた戻っていただいて、姫路市が今案の状態で公表されていて、たつの市と福崎町は既に公表されています。市と町の境界のところですが、居住誘導区域とか都市機能誘導区域の設定で、隣接市との連続性を意識されているのでしょうか。

【森川課長】

意識して形成しております。姫路市との境につきましては、まず太田地区の東側の山田というあたりは当町の市街化区域からはかなり離れておりますが、ここはバス交通が 179 号線沿いで東西にずっと延びて、姫路市の青山の方へ行っています。今の太子町の市街化区域の中では、途中でとまっているところでございますので、東の端までを意識して線を伸ばしております。40 ページ図の赤の都市機能誘導区域が東へ伸びているところです。

次に糸井という JR の網干駅付近でございますが、ここでこちらの境界より東側がすべて姫路市の市街化区域です。姫路市も区画整理を行ってまして、当然、こちらの方との整合性もとっております。

【八幡部長】

補足させていただきますと、15 ページの資料を見ていただけますか。先ほど課長が申し上げましたのは、用途地域であったり、そういった居住誘導の観点から見えていました。

今、太子町においての公共交通機関というものが、網干駅を中心とした下のブルーで塗っている 1 キロ圏域の半月型のラインと、あとは網干からたつの方面に行くバス、龍野から姫路に行くバスのラインでバス停半径 500 メーター圏域があり、調整区域の人も含めたほとんどの人が集まってきている。

網干駅はパークライドで駐車場にとめて、姫路城や神戸へ行かれる方もいらっしゃるんですけども、網干駅から動くのと、バスで動くのとの両方があるって、特に重要視しているのは、姫路市までの圏域では、山田から青山へ抜けると、太田地区の方はバスで姫路に行かれる。そういうような姫路側とのつながりというものも非常に意識しています。

特に石海地区の立岡も同じで網干から龍野へのネットワークをどうつないでいくのか。観光客もそうですし、生活も含めてですが、どうつないでいくのかの 2 軸で立地適正化計画では関連性をつくっています。

【改野委員】

<p>9 閉会</p>	<p>中身ではなしに表現の仕方についてですが、4ページを見ていただけますか。平成32年をピークにと説明文では書いていますが、その下のグラフが二つとも西暦になってるんですよね。少し見にくいと思います。</p> <p>それと、もともと平成32年というのではないと思います。</p> <p>ですから、これは全部西暦に直したほうがいいのではないかなというふうに思いました。</p> <p>【高井会長】</p> <p>慎重にご審議いただきありがとうございました。本日はいろいろな委員の方からご質問、ご意見等が出ました。それを踏まえまして、事務局で対応していただきますよう、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>これをもちまして、本日予定されていた案件は終了いたしました。</p> <p>では、会の進行を事務局にお返しします。</p> <p>【森川課長】</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>それではこれで平成29年度第1回太子町都市計画審議会を終了させていただきます。</p> <p>委員の皆様には、長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。</p>
-------------	--

上記のとおり相違ないので署名します。

署名委員

齊藤和夫

廣田誠